

飯盛山のカタクリ群生地

あすこ紹介

近藤 睦さん、武尊さん、佳代さん
柚奈さん、蓮希さん

足助の名スポット紹介

小鳩屋

あすけ通信最終号あいさつ

飯盛山のカタクリ群生地

毎年3月中旬から下旬にかけ見ごろを迎えるカタクリの花。俯いて花を咲かせる姿が特徴的で、万葉集に詠まれるほど昔から人々に親しまれてきました。

香嵐溪の中心に位置する飯盛山のカタクリは、以前より自生していたものを、地元の人々が保護育てた結果、現在のように散策できるまでになったそうです。

ちなみに花言葉は、「初恋」「寂しさに耐える」です。これから見ごろを迎えるカタクリの花、ぜひ見に行かれてみてはいかがでしょうか。(鈴木悠太)



後列左から 袖奈さん、佳代さん、武尊さん
前列左から 睦さん、杏奈さん、蓮希さん、実柑さん、恵美さん



今回は、3世代に渡って新盛小学校を学び舎としてきた近藤睦さん(70歳・昭和40年卒業)、佳代さん(34歳・平成13年卒業)、袖奈さん(小3)、蓮希さん(小1)と大阪出身の武尊さん(33歳)に、新盛小学校の思い出や、Uターンの経緯をお聞きしました。武尊さん、佳代さんとお子さんたちは、ご実家のすぐ隣の空き家をリフォームして、3年前から住んでいらっしゃいます。

■同級生は何人でしたか？

睦さん 35人でした。

佳代さん 私は12人でした。袖奈は2人で、蓮希は5人です。

■小学校ではどんなことをして遊びましたか？

睦さん 休み時間になるとよくキャッチボールやっていたのと、15m位の簡易プールがちょうどできたので、そこで泳いでいました。

佳代さん ブランコみたいものがいっぱいあった、ゆらゆら橋とかタイヤで作った遊具があったのでそれで遊んでいました。

袖奈さん 先生がカードゲームを何種類か持ってきてくださっているの、それで遊んでいます。

蓮希さん ほぼサッカーをやっています。

■小学校の時代の印象深い思い出は？

睦さん 6年生のときに、大学を出てすぐのサッカーが上手な先生が赴任され、サッカーを教えてもらいました。野球はやっていましたが、当時サッカーなんてやったことがなくて面白かったですね。ボール



をみんなで追いかけるだけで、サッカーになっていなかったかもしれないですけど。

佳代さん ちょうど今のプールができたのが、小学校1年生のときでした。あとは、スキー教室に行った思い出があります。姉のときはスキー教室ではなくて、香嵐渓スケートセンターでスケート教室があったそうです。

睦さん 昭和48年に今の新校舎が建設されているから、私のときは昭和15年に増築された木造校舎でしたね。その前の大正5年の改築校舎には、父が通っていて、母も行っていました。それからの縁で結婚したみたいです。

■こちらに戻ってきたきっかけは？

佳代さん 私は高校卒業後、大阪に出ました。それからずっと大阪で、主人とは、職場で知り合って結婚しました。戻ってきたきっかけは、家を継いで欲しいという父の願いからです。

睦さん 新盛小学校に孫を行かせたかったの。

武尊さん 戻るのは10年後でも、もっと先でも良いと言われていましたが、長女が小学校に入学するタイミングにしよう決めました。途中で転校する



近藤さんご家族



より入学からの方が良いですし、私も30歳だったので、仕事を探すにしても早い方が良いと考えました。仕事は同じ業種に転職できて、豊田市街に通勤しています。

■家探しは大変でしたか？

睦さん 私は定住委員をやっていたのですが、戻って来てくれるとなったときには、近くに空き家がなく、冷田、大蔵、旭などで一生懸命探しました。そうしているときに、たまたま、うちのすぐ隣の空き家に入る予定だった方が譲ってくださることになって、それが引っ越す前年の秋でした。

佳代さん それからリフォームしたので、4月の入学に合わせて引っ越すのに、結構ギリギリでした。

■こちらでの暮らしはhowですか？

武尊さん 大阪での暮らしとは環境が大分変わりましたが、楽しんでます。子どもたちは騒いでも近所迷惑にならないし、のんびりできています。近くにサッカーとか野球をやるような広場があるといいですけどね。この家に畑が付いていたのですが、荒れ果ててしまっていたのでそこを開拓しました。今、イチゴの栽培をしていて、畑仕事にハマっています。まだ趣味ですけど、将来は産直市場に出したいですね。

佳代さん 子どもたちは伸び伸びと走り回ることができて、一番田舎の生活に馴染んでいますね。こっちの子よりも、外で自然のもので遊んでいるくらいです。畑にも付いて行って手伝ったり、遊んだりしています。

武尊さん そういうことは、大阪ではできなかったですね。学校も人数が少ないので、置いていかれることがないのはいいですね。

(高木伸泰)



開校時の仮校舎 (大鷲院禅堂)



大正5年の改築校舎



昭和15年の増築校舎



昭和48年に開校100周年で建設された現在の新校舎



足助の名スポット紹介

小鳩屋

住所：豊田市足助町新町 34

HP:<https://www.kobotoya-asukehostel.com/>



足助の古い町並みに、11月末にオープンした「小鳩屋」。かつて飲食店として町の人々に親しまれていた「小松屋」をリノベーションしてオープンした宿泊施設だ。シンボルマークである鳩は、足助氏の家紋の「対い鳩^{むか}」からインスピレーションを受け、小鳩屋での人と人との交流の様子を、重なり合う鳩の絵で表現している。

オープンに関わったのは、2021年、2022年に豊田市が実施した滞在型ワークショップ「はじまりアパートメント」に参加し、「小鳩屋」の元となる「小松屋」に短期滞在した若者たち。彼らは、足助地域に魅力を感じ、オーナーの鳥居智子さんの思いに賛同し、オープンまでのプランディングやリノベーションデザイン、壁の漆喰塗りに取り組んだ。このようにしてオープンした「小鳩屋」は、建物の内装、食事、宿泊者限定のワークショップなど、足助のものを知ってほしいという鳥居さんのこだわりが詰まった宿となっている。

内装の壁の漆喰は三州足助屋敷の炭を入れて作っており、各部屋に設置されているテーブルランプも三州足助屋敷の職人が作ったものだ。また、モーニングの食材は

ほとんど地元のものを使っている。メニューは、プレートモーニングとゴーゴーモーニングの2種類。特に、ボリューム満点のプレートモーニングは、「花の木」の鶏肉を使ったチキンソテーや「山恵」の鹿肉を使用したウインナーなど、足助の味を楽しむことができる一皿となっていた。この内容も、今後地元の物を使いながら色々変えていく予定だという。

さらに、足助の伝統技術を体験できるワークショップに参加できるのも「小鳩屋」ならではの魅力だ。足助屋敷での木皿づくり体験や靴下の藍染体験、小鳩屋でのお豆腐づくり体験、さらに香積寺での座禅体験が用意されており、足助での思い出をより充実させてくれるものとなっている。

鳥居さんは「小鳩屋」について、「足助に訪れてくれた人が何度も帰って来られる家のような場所にしたい。地元の人と観光客の方が関わるができる場所にしたい。」と話してくれた。足助の魅力がたくさん詰まったこの宿が、多くの人の交流の場所となってくれとうれしい。
(小野詩織)



あすけ通信最終号あいさつ

2012年に第1号を発行開始してから10年以上に渡り、地域への愛着とふるさとへの思いを持ち続けて欲しいという思いから、あすけ通信の発行を行ってまいりました。この度、第45号の発行をもちましてあすけ通信の発行が終了となります。みなさまのご協力があり、ここまで続けてくることができました。

あすけ通信は終了となりますが、今後は、あすけ支所だよりの中で、地域への愛着や地域へのつながりをテーマに足助地区の情報を発信していきますので、引き続きご覧いただければ幸いです。

最後になりますが、10年以上に渡り、あすけ通信をご愛読いただきありがとうございました。